



成果指標				
成果指標	伊予市・セーラム国際交流委員会(事業部会含む。)の開催回数			
指標設定の考え方	本市の国際交流事業の方向性等について検討を行った結果、オレゴン州セーラムとの将来的な友好都市の締結も視野に入れた継続的な交流活動を目指すことと決定したため、当該活動の推進団体である国際交流委員会を設立し、協議・検討を行った回数を指標に設定した。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目標	300%	300%	0	0
実績	300%	400%	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	現在は、セーラム市へ中学生を派遣することが主となり、セーラム市からの来市は実現していないため、本当の意味での交流とはなっていない。今回の中学生海外派遣において市長が団長として赴き要請したことで、平成26年4月のセーラム市長の来市が実現し、今後のセーラム市からの派遣生の受入れや経済・観光等交流の実現のはずみとなった。今後も、国際交流委員会と連携しながら、さらに強く要請していく必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	セーラム市との交流を更に深めるためにも中学生の相互訪問が実現できるよう協議を進める必要がある。今回、市長が団長として訪問し、本市のセールスを行うなど、経済交流に向けての動きがあったが、これを発展させていく交流についても検討していかなければならない。また、日韓市民友好フォーラムが実施されたが、新たな国際交流についても、その効果を検証しながら取り組む必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	国際交流の意義・目的をもっと広く、多くの市民に伝える工夫が必要であること及び派遣事業の効果を検証しながら新たなプログラムを検討のこと。

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ見直すこと。